



和牛甲子園 通信

04号

高校牛児のみなさん、こんにちは！和牛甲子園事務局です。
第6回大会の出場校が決定しました。全国23県から40校57頭が参加する過去最大規模の大会となります。

また取組評価部門の審査委員長 東京農業大学の多田耕太郎教授から、来年1月の本番にむけて準備に余念のない高校牛児の皆さんに期待と激励のメッセージをお届けします。

第6回和牛甲子園 出場校決定！ 過去最多23県 40校 57頭が出場（初出場5校）

No.	県	学校名	出品頭数	出場回数	No.	県	学校名	出品頭数	出場回数
1	北海道	北海道倶知安農業高等学校	1	初	21	岐阜県	岐阜県立大垣養老高等学校	2	5
2		酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校	体	初	22		岐阜県立加茂農林高等学校	2	6
3	青森県	青森県立三本木農業高等学校・ 青森県立三本木農業恵拓高等学校	2	3	23		岐阜県立飛騨高山高等学校	2	6
4	岩手県	岩手県立水沢農業高等学校	1	6	24	愛知県	愛知県立渥美農業高等学校	2	4
5		岩手県立盛岡農業高等学校	2	3	25	滋賀県	滋賀県立長浜農業高等学校	2	5
6		岩手県立花巻農業高等学校	体	2	26	京都府	京都府立農芸高等学校	1	初
7	宮城県	宮城県農業高等学校	1	2	27	島根県	島根県立出雲農林高等学校	1	6
8	福島県	福島県立会津農林高等学校	2	4	28	岡山県	岡山県立瀬戸南高等学校	1	4
9		福島県立磐城農業高等学校	1	3	29	広島県	広島県立西条農業高等学校	2	4
10	茨城県	茨城県立水戸農業高等学校	体	初	30	山口県	山口県立大津緑洋高等学校	1	3
11	栃木県	栃木県立宇都宮白楊高等学校	2	6	31	佐賀県	佐賀県立唐津南高等学校	1	6
12		栃木県立鹿沼南高等学校	2	6	32	長崎県	長崎県立諫早農業高等学校	1	3
13		栃木県立栃木農業高等学校	2	6	33	熊本県	熊本県立南稜高等学校	2	4
14		栃木県立那須拓陽高等学校	1	6	34	宮崎県	宮崎県立高鍋農業高等学校	2	2
15		栃木県立真岡北陵高等学校	2	5	35		宮崎県立都城農業高等学校	1	2
16	栃木県立矢板高等学校	2	6	36	鹿児島県	鹿児島県立市来農芸高等学校	2	5	
17	群馬県	群馬県立利根実業高等学校	2	4		37	鹿児島県立鶴翔高等学校	2	6
18		群馬県立吾妻中央高等学校	体	初		38	鹿児島県立鹿屋農業高等学校	2	6
19	神奈川県	神奈川県立中央農業高等学校	1	4		39	鹿児島県立曾於高等学校	2	5
20	富山県	富山県立中央農業高等学校	1	6	40	鹿児島県立加世田常潤高等学校	1	4	

※体=体験発表会のみ参加

高校牛児の高い意欲が支えた 成長と深化の5年間

取組評価部門 審査委員長 多田先生が語る 和牛甲子園5年間のあゆみ

今回は、鋭いコメントのなかにも、懐の深さとあたたかさが光る取組評価部門の名物審査委員長、東京農業大学 多田耕太郎先生にお話を伺いました。

第1回より運営全般に助言をお願いしている多田先生からみた、この5年間のあゆみと来年1月にむけて闘志を燃やす高校牛児への激励のメッセージをお伝えします。

Q. 第1回大会から取組評価部門の審査委員長として高校牛児を見守っていただいている多田先生にとって、「和牛甲子園」とは何でしょうか？

A. 一言でいえば、「将来楽しみな子供達が集う場所」というべき存在です。ここ5年間で高校牛児というネーミングはすっかり定着しました。この大好きな「子供達」を、甘やかさず大切に育てているところです(笑)。
また私自身も、教育者として大きな影響を受けていると実感しており、得難い体験をさせてもらっています。



東京農業大学 農学部
デザイン農学科
多田耕太郎 教授

Q. そんな高校牛児の5年間の歩みについて、先生の眼には、どのように映っているのでしょうか？

A. 初期は、高校によって、発表内容にバラツキがありました。しかし、皆さんの意欲は高く、回を重ねるごとに相互に刺激を受け、発表内容の差は縮まっています。このことから、どの学校も頂点に立つ可能性があるハイレベルな競争になっています。

Q. ここまで和牛甲子園が成長した原動力は何でしょうか？

A. 「生き物」を通じた先輩から後輩への「成長の記録」の承継ではないでしょうか。言い換えると、家畜の「いのち」を仲立ちとした「おもい」のバトンルーですね。

Q. 第6回大会は3年ぶりの実開催となりますが、期待するところは？

A. 実開催はWeb開催以上に、参加者が受ける刺激が強いです。大会期間中は言うに及ばず、終了後も、受けた刺激によって、成長の度合いやスピードが加速すると思います。加えて、高校牛児は自ら更なる切磋琢磨に励むことでしょう。そんな相乗効果もあり、大会終了後は「想定外」の成果が生まれてるのではと、ワクワクしています。

Q. では最後に多田先生より高校牛児へメッセージをお願いします。

A. 高校牛児のみなさん！自分しかできない人間力を見せてくれる発表を期待しています。また畜産業＝「生命」にかかわる産業であり、自らの人生をかけるにふさわしい仕事です。楽ではありませんが、やりがいにあふれています。